



キャンパス・コンソーシアム函館
合同公開講座

函館学 2016

第4回講座
講義資料

多様性を活かした地域づくりを考える

古地 順一郎

北海道教育大学函館校 准教授

日時：平成28年10月15日（土）午後1:30～3:00

会場：北海道教育大学函館校 講義室

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

講師略歴

古地 順一郎 北海道教育大学教育学部国際地域学科 准教授

山口県光市出身。オタワ大学大学院政治学研究科博士課程修了（カナダ）。モントリオール市役所職員、ケベック大学モントリオール校ケベック・カナダ研究所研究員、外務省在カナダ日本国大使館専門調査員を経て現職。専門は政治学及びカナダ研究。カナダでは、主にケベック州の移民政策、多文化共生政策を研究。北海道教育大学函館校では、地域政策に関わる授業を主に担当し、多様性を活かした地域づくりに取り組む。

ゲスト略歴（50音順、敬称略）

北見 伸子 カフェまるたま小屋 店主

年齢や血縁を超えたつながりの中で、多様な挑戦をすることでそれぞれの得意とする分野の卵がかえり、あらゆる人たちに役割が生まれることを目指して「まるたまプロジェクト」を立ち上げ、講座やイベントを開催。その後、元町の古民家でロシア風カフェ「まるたま小屋」、イベントスペース兼カフェ「まるたまスクエア」をオープン。古い住宅地でありながら観光地でもある元町で、世界各国、日本各地、函館近郊から訪れる人たちと交流。そこから芽生えたアイデアをもとに、日々ピロシキを焼きながら、さまざまな企画に挑戦中。

島 信一郎 インクルーシブ友の会ピースプロジェクト（ソーシャル・インクルージョン・プロジェクト）代表

障害健常および障害種別を問わず誰もが共に生きる社会を目指し、平成15年からインクルーシブ友の会の活動を始め、ユニバーサルデザイン（UD）環境の構築に向けて人材育成事業などを展開。平成18年に北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会を設立し代表に就任。毎年道南2市1町で開催される同映画祭は、「インクルージョン」を基本理念とし、インクルーシブ社会の人づくり・街づくりの実践として、多彩なワークショップやフォーラムなど、独創的な取り組みを行い、全国的にも高く評価されている。平成20年に（一社）函館視覚障害者福祉協議会理事長に就任。自助団体を越えた、地域貢献型の新たな当事者団体として、組織改革に着手。北海道運輸局長表彰（バリアフリー化推進）、国土交通省バリアフリー化功労者大臣表彰、函館市長表彰（バリアフリー功労）を受賞。

成田 容子 青森インターナショナルLGBT フィルムフェスティバル実行委員長

青森市出身。2006年に、「第1回青森インターナショナルLGBT フィルムフェスティバル」を開催し、その後、毎年開催している。LGBT 支援活動としては、2004年にインターンとして、サンフランシスコにある LGBT 支援組織 “Community United Against Violence(CUAV)”で5ヶ月間研修。2006年には、国際交流基金日米センターのフェローとして、ニューヨークにある“Amnesty International USA”のLGBT セクションで4ヶ月間研修。著書：『NPO インターン日記@CUAV サンフランシスコ』（北の街社 2005年）。

多様性を活かした地域づくりを考える

2016年10月15日

■●講義内容◆▲

今回の講義では、函館の今後を考える一つのキーワードとして「多様性」に焦点を当てます。皆さんもご存知のように、函館の歴史を紐解くと、国内外から流れ込んできた様々なものが混ざり合っ、このまちと人びとの暮らしが作られてきたことが分かります。函館の歴史は、多様性を取り込み活用してきた歴史であると言っても過言ではないでしょう。

しかし、現在、函館のまちづくりで「多様性」ということがどこまで意識されているのでしょうか。函館は、多様な人びとが、自分たちの個性や能力を発揮できるまちでしょうか。さまざまな人びとの視点が反映された地域づくりがされているのでしょうか。

函館では急速な人口減少が進んでおり、今後、さまざまな個性や背景をもった市民が、自分たちにできることをしながらまちを支えていくことが重要になってくるでしょう。人口減少については、否定的な側面が強調されますが、一方では、多様な人びとが地域社会に関わりながらまちづくりを進められるチャンスととらえることもできます。そうなれば、函館は、市民一人一人が自己実現できる豊かなまちへと生まれ変わるでしょう。

北海道新幹線が開通したことで、新たな人の流れが函館に生まれています。このことは、新たな多様性の風が吹くことも意味します。多様なものが、あるがままの個性をいかんなく発揮し、新たな創造につながるまち「多様性の都はこだて」。その実現に向けたきっかけづくりが今回の講座の目的です。

そのような新たな動きのイメージをつかんでいただくため、今回は3人のゲストの方をお招きしました。それぞれ、地域社会のさまざまな多様性に光をあて、活発な活動を市民社会で展開されています。ゲストの方々のお話しを通じて、函館のまちづくりに「多様性」がどのように活かせるのか考えていきます。

■●本日の流れ◆▲

- 13:30-13:40 趣旨説明 (古地 順一郎)
- 13:40-14:00 北見伸子さんのご報告
- 14:00-14:20 島信一郎さんのご報告
- 14:20-14:40 成田容子さんのご報告
- 14:40-14:55 意見交換
- 14:55-15:00 まとめ

イニアルの心

の本質

【普遍的四つの人間観】

一 ひとりひとは

掛け替えない存在。

全てが代用の利かない大切な存在。

全ての命は尊きもの。

あるがままこそが美しい命の輝き。

【尊厳】

一 ひとりひとは、

同じ存在ではない。

全てが違う存在。

固有の良さや持ち味・可能性、

得て不得手・向き不向きを

それぞれの「違い」として

存在することが当たり前。

限られた価値だけで

人間を親てはいけない。

ひとりとして

同じ人間は存在しない。

【尊重】

一 人間は決してひとりでは
生きていけない存在。
心は全てを認め合い、
信じ合い、助け合い、
支え合う。
掛け替えないひとりひとりを
尊重し合う心。
ひとりひとりの違いを
尊重し合う心。

「共存」

一 人間は繋がりの中で
生きていく存在。

繋がりは、

同情や哀れみ・優劣ではなく、
共感し合いながら保たれる。

互いに心を傾聴し、

心と心はふれあい、

暖かな距離感をつむぎ合いながら、

優しさの波紋は広がっていく。

こうして命の輝きは

柔らかな光を放ち、

万人が共に生きる社会を照らす。

「共生」

私たちの存在は、
あるがままで輝いていきます。
この尊き命の輝きは、
全て違う輝きを放ち、
等しく価値ある存在です。
私たちは、この一人一人の
命の輝きに気付き機会を、
気付かぬうちに
遠ざけてしまへてはいないでしょうか
一人一人の違いを当たり前前のこととして、
互いに認め合い。
尊重し合いながら共存する。
この真なる共存の広がりによへて
つくられる共生社会こそが、
本来あるべき自然の姿。

ソーシャルインクルージョンプロジェクト 2 16

島 信一朗